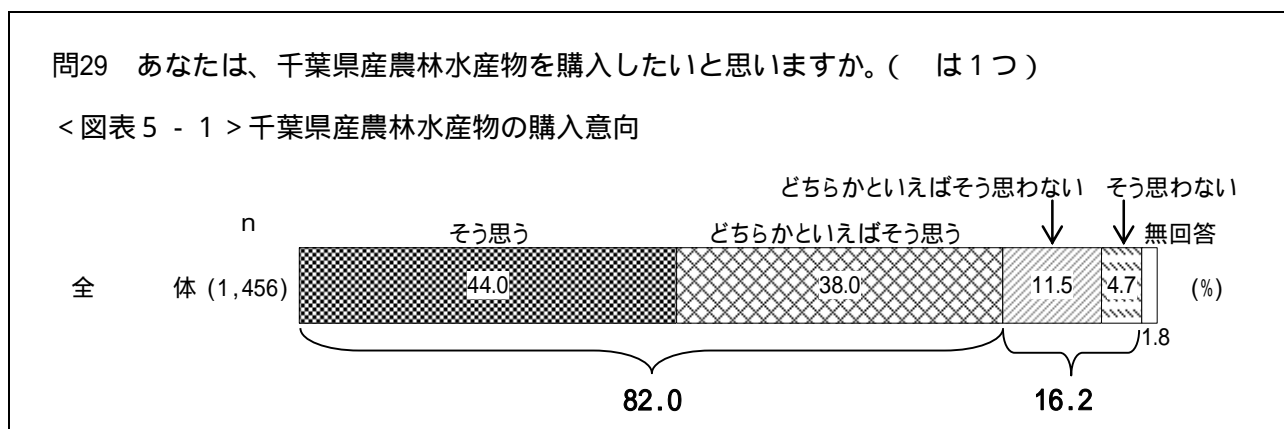


## 5 千葉県の農林水産物について

### (1) 千葉県産農林水産物の購入意向

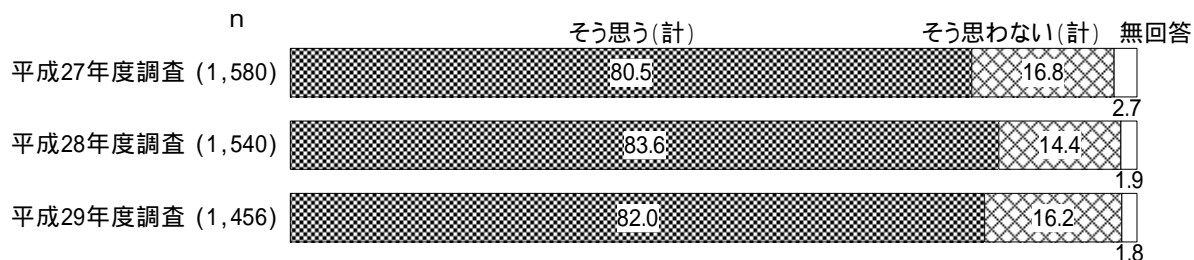
『そう思う（計）』が8割を超える



千葉県産農林水産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」（44.0%）と「どちらかといえばそう思う」（38.0%）を合わせた『そう思う（計）』（82.0%）が8割を超えて高くなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（11.5%）と「そう思わない」（4.7%）を合わせた『そう思わない（計）』（16.2%）は1割台半ばとなっている。（図表5 - 1）

〔参考〕平成27年度・平成28年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



#### 【地域別】

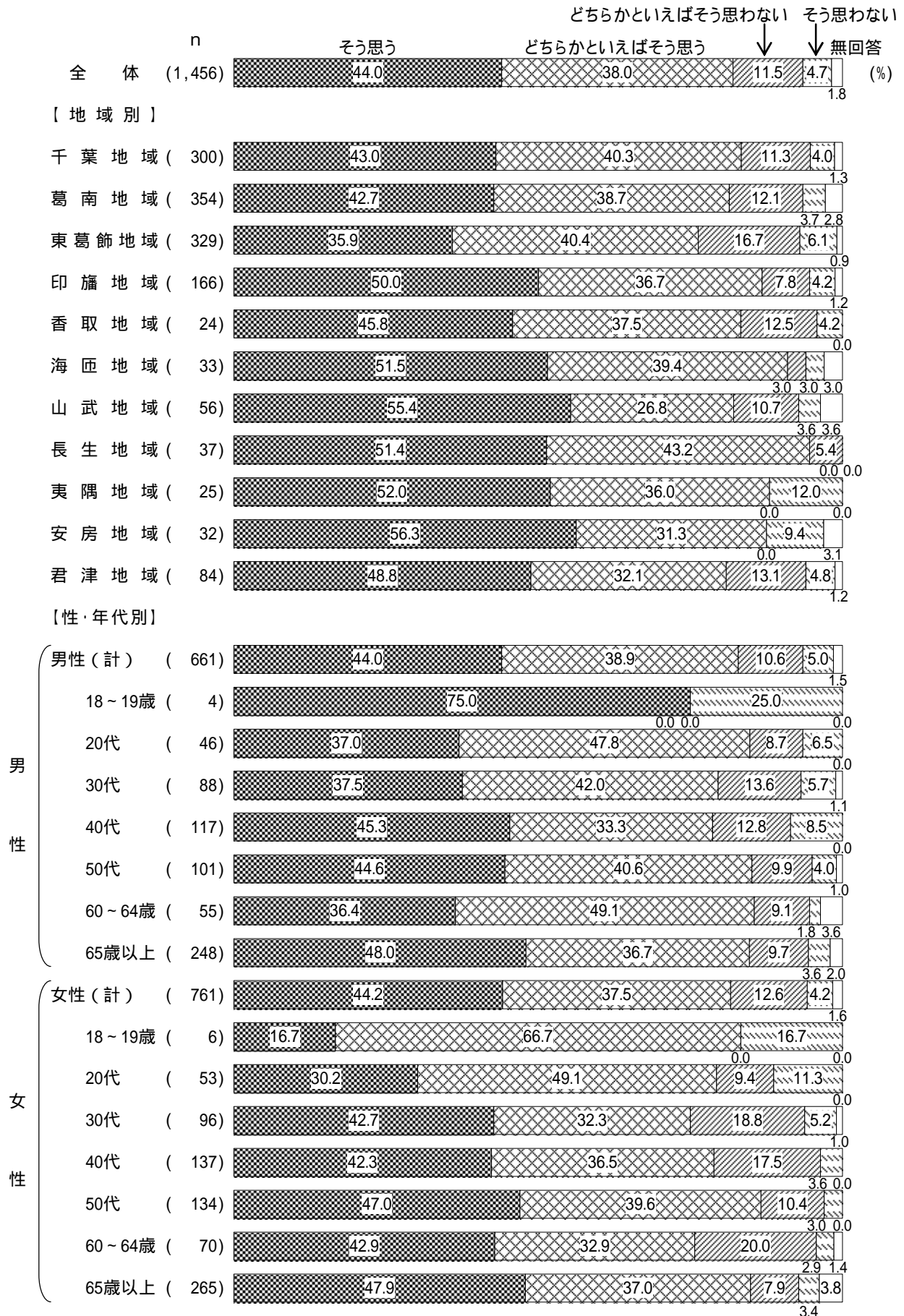
地域別にみると、『そう思う（計）』は“長生地域”（94.6%）が9割台半ばで高くなっている。

（図表5 - 2）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表5 - 2）

<図表5 - 2> 千葉県産農林水産物の購入意向 / 地域別、性・年代別



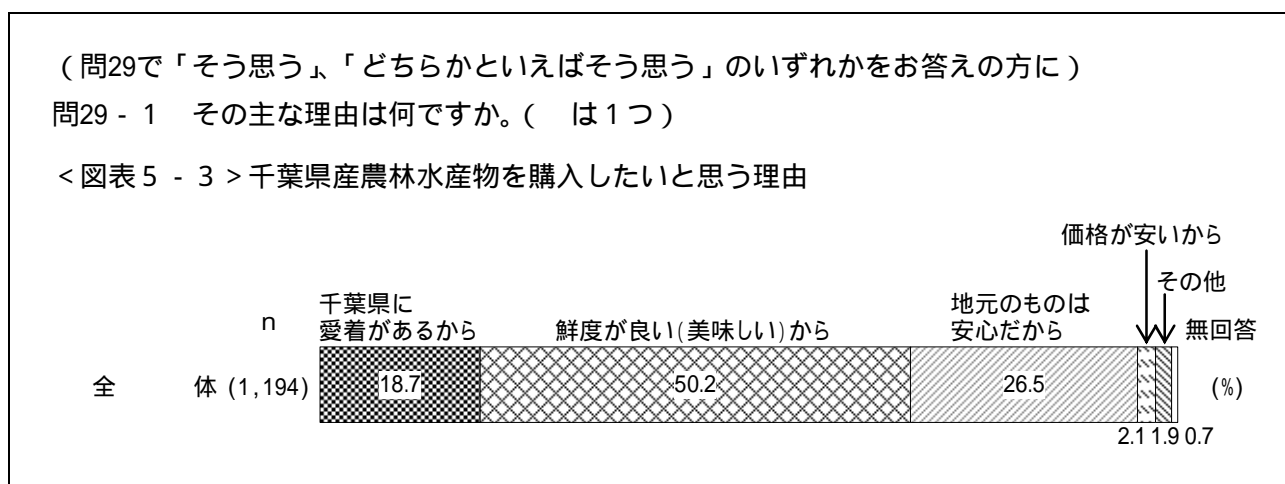
### （1 - 1）千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由

「鮮度が良い（美味しい）から」が5割

（問29で「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」のいずれかをお答えの方に）

問29 - 1 その主な理由は何ですか。（は1つ）

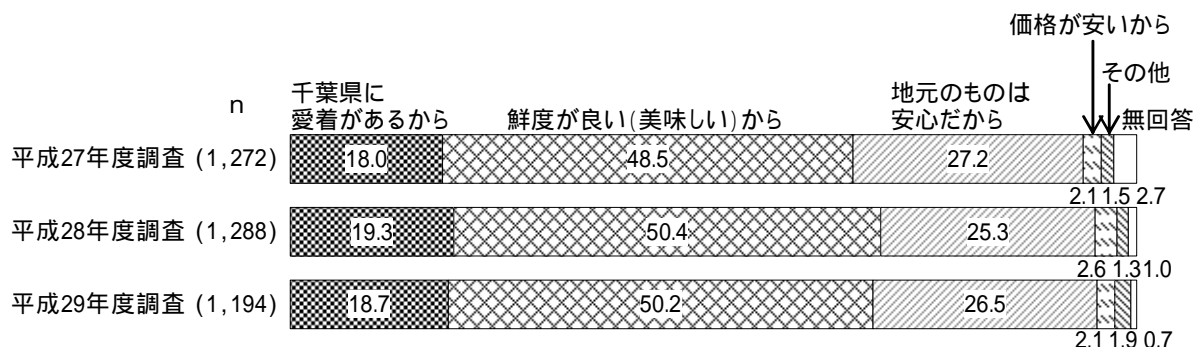
<図表5 - 3> 千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由



千葉県産農林水産物を購入したいと回答した1,194人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「鮮度が良い（美味しい）から」（50.2%）が5割で最も高く、以下、「地元のものは安心だから」（26.5%）、「千葉県に愛着があるから」（18.7%）、「価格が安いから」（2.1%）が続く。

（図表5 - 3）

〔参考〕平成27年度・平成28年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



#### 【地域別】

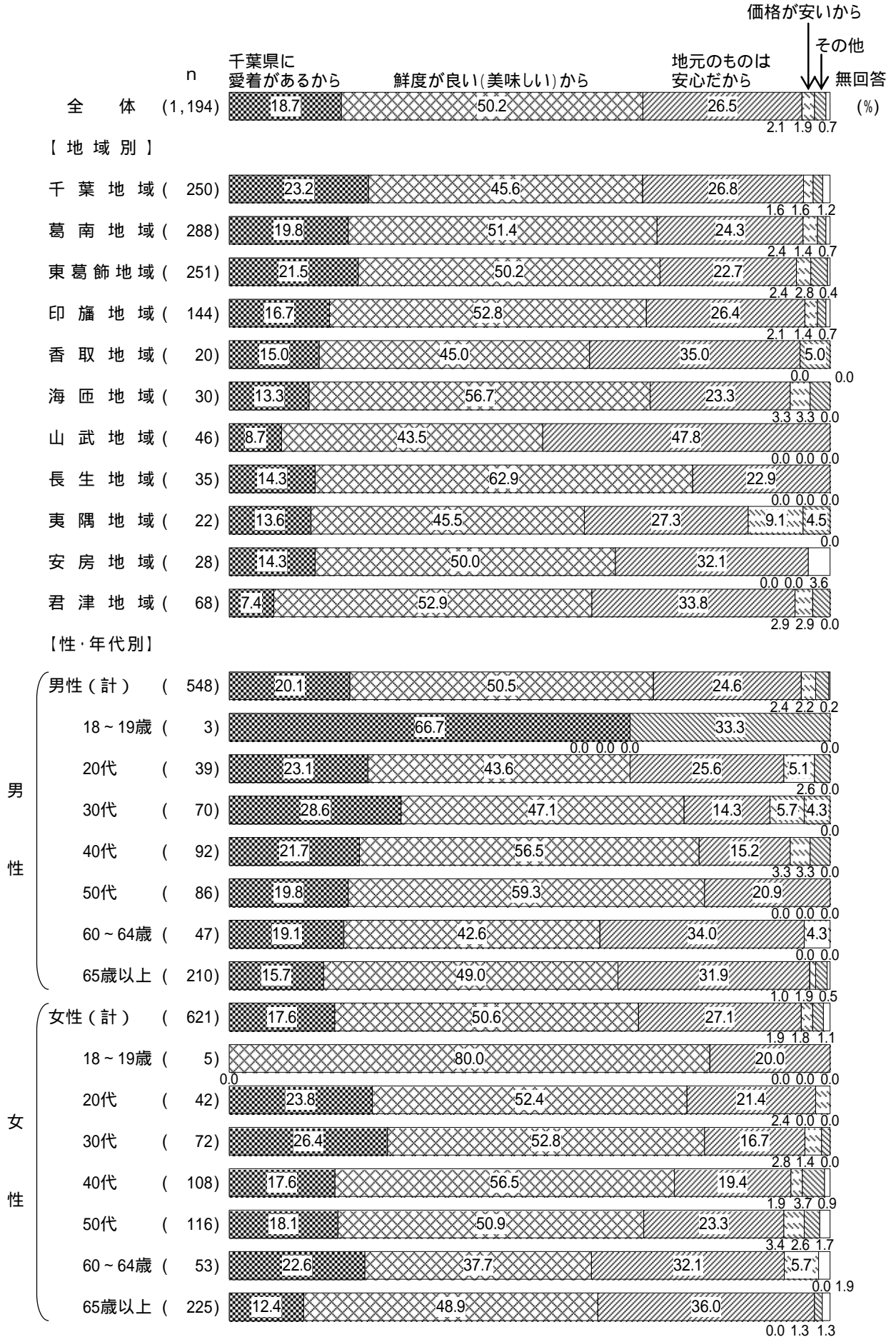
地域別にみると、「地元のものは安心だから」は“山武地域”（47.8%）が約5割で高くなっている。（図表5 - 4）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「地元のものは安心だから」は男性の60～64歳（34.0%）と女性の65歳以上（36.0%）が3割台半ばで高くなっている。

「千葉県に愛着があるから」は男性の30代（28.6%）が約3割で高くなっている。（図表5 - 4）

<図表5 - 4> 千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由 / 地域別、性・年代別

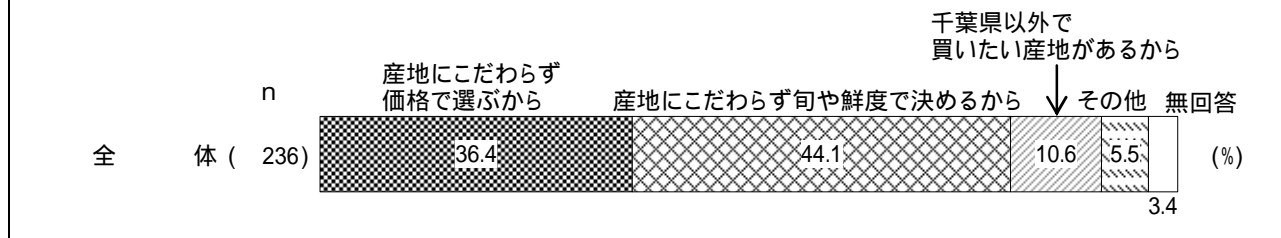


## （1 - 2）千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由

「産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから」が4割台半ば

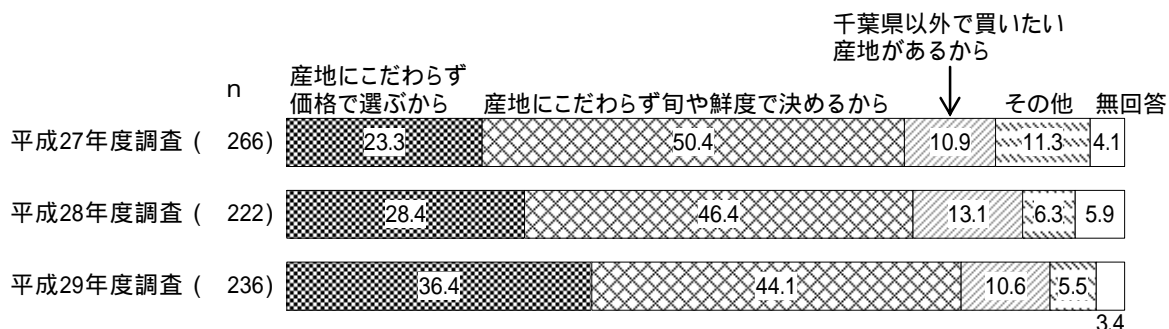
（問29で「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」のいずれかをお答えの方に）  
 問29 - 2 その主な理由は何ですか。（ は1つ）

<図表5 - 5> 千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由



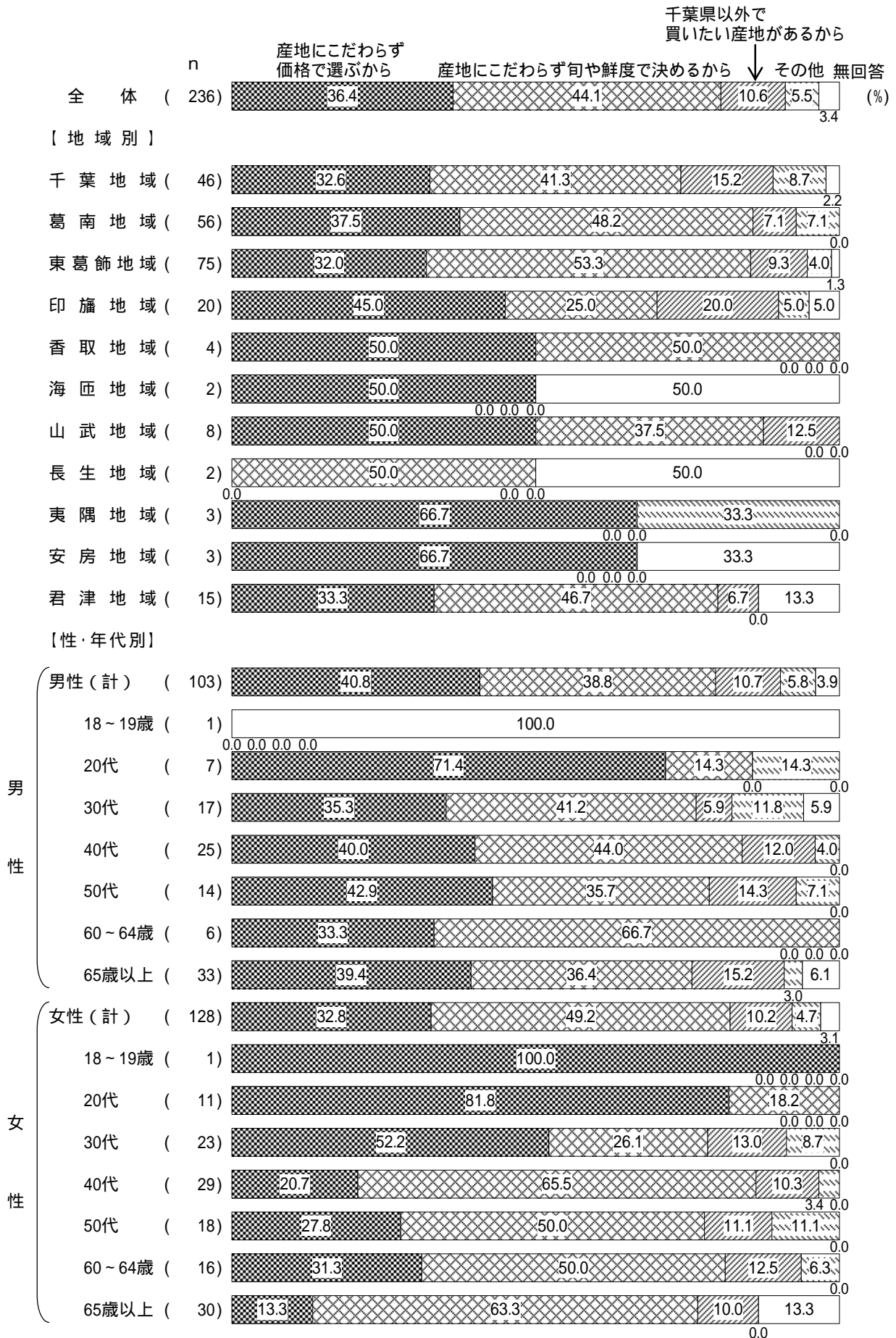
千葉県産農林水産物を購入したいと思わないと回答した236人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから」(44.1%)が4割台半ばで最も高く、以下、「産地にこだわらず価格で選ぶから」(36.4%)、「千葉県以外で買いたい産地があるから」(10.6%)が続く。(図表5 - 5)

〔参考〕平成27年度・平成28年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



サンプル数が少ない（有意差がない）ため、【地域別】と【性・年代別】における属性の分析は触れていない。（10ページ「報告書の見方（5）」を参照）

<図表5 - 6> 千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由 / 地域別、性・年代別



## （2）環境にやさしい農産物の認知度

「有機農産物」が6割を超える

問30 あなたは、農薬や化学肥料の使用量の低減などにより、環境に配慮して生産される次の農産物や制度を知っていますか。（はいいくつでも）

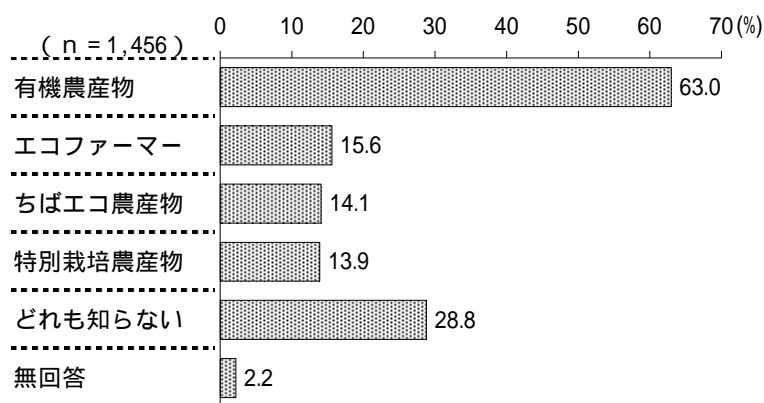
「有機農産物」：JAS法に基づき化学肥料・農薬を使わず栽培し、登録機関で認定された農産物

「エコファーマー」：持続性の高い農業生産方式の導入計画を作成し、県が認定した農業者

「ちばエコ農産物」：県の基準に基づき化学肥料・農薬を通常の1/2以下で栽培し、県が認証した農産物

「特別栽培農産物」：国のガイドラインに基づき化学肥料・農薬を通常の1/2以下で栽培し、生産者が定める責任者が確認した農産物

<図表5 - 7> 環境にやさしい農産物の認知度（複数回答）



環境に配慮して生産される農産物や制度を知っているか聞いたところ、「有機農産物」（63.0%）が6割を超えて最も高く、以下、「エコファーマー」（15.6%）、「ちばエコ農産物」（14.1%）、「特別栽培農産物」（13.9%）が続く。（図表5 - 7）

### 【地域別】

地域別にみると、「エコファーマー」は“山武地域”（26.8%）が2割台半ばで高くなっている。

「ちばエコ農産物」は“夷隅地域”（32.0%）が3割を超えて高くなっている。（図表5 - 8）

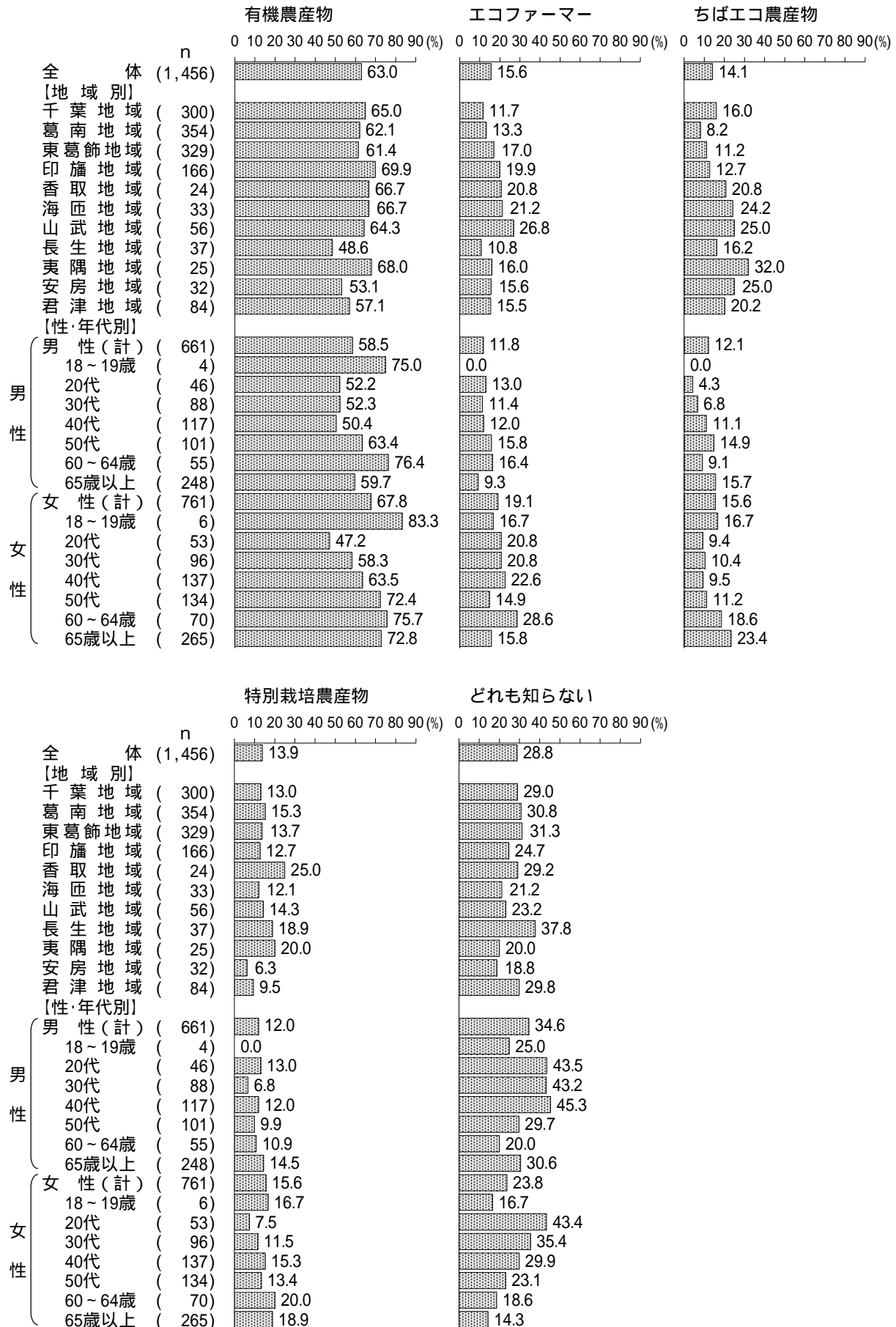
### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「有機農産物」は男性の60～64歳（76.4%）と女性の60～64歳（75.7%）が7割台半ばで高くなっている。

「エコファーマー」は女性の60～64歳（28.6%）が約3割で高くなっている。

「ちばエコ農産物」は女性の65歳以上（23.4%）が2割を超えて高くなっている。（図表5 - 8）

<図表5 - 8> 環境にやさしい農産物の認知度（複数回答）/ 地域別、性・年代別





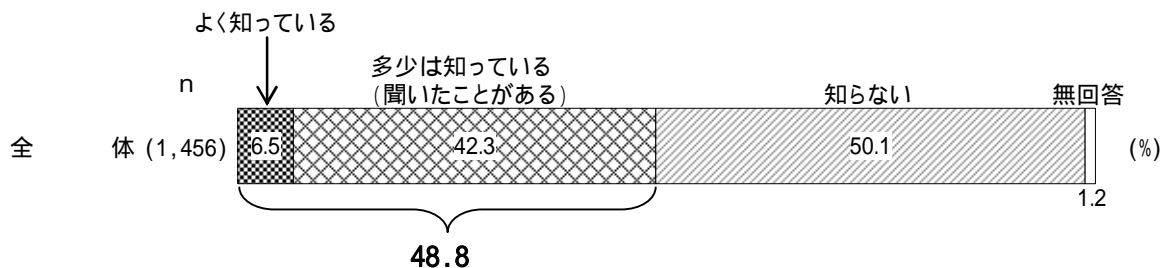
### （3）「千葉ブランド水産物」の認知度

『知っている（計）』が約5割

問31 千葉県では、千葉のさかなの認知度を高め、広く県内外にアピールするため、「銚子つりきんめ」、「外房イセエビ」、「九十九里地はまぐり」などの優良な県産水産物を「千葉ブランド水産物」として認定しています。

あなたは、「千葉ブランド水産物」を知っていますか。（は1つ）

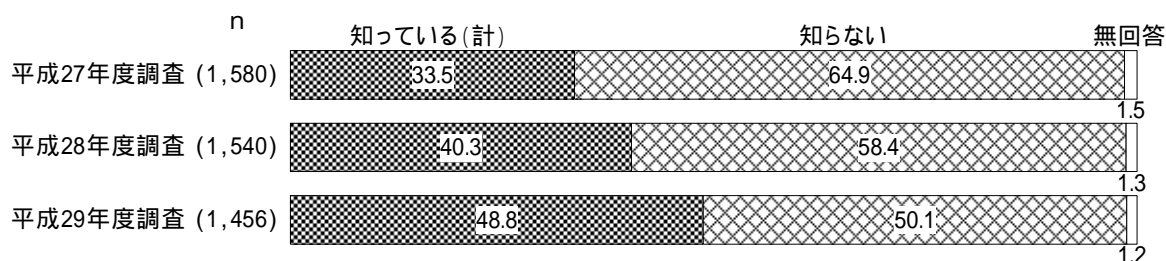
<図表5-9> 「千葉ブランド水産物」の認知度



「千葉ブランド水産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」(6.5%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(42.3%)を合わせた『知っている(計)』(48.8%)が約5割となっている。

一方、「知らない」(50.1%)は5割となっている。(図表5-9)

〔参考〕平成27年度・平成28年度の同様の項目による調査結果との比較(単位:%)



#### 【地域別】

地域別にみると、『知っている(計)』は“夷隅地域”(76.0%)が7割台半ば、“海匝地域”(72.8%)が7割を超え、“山武地域”(66.1%)が6割台半ばで高くなっている。(図表5-10)

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『知っている(計)』は女性の65歳以上(67.6%)が約7割、男性の60~64歳(61.8%)が6割を超え、男性の65歳以上(57.7%)が約6割で高くなっている。(図表5-10)

<図表5 - 10> 「千葉ブランド水産物」の認知度／地域別、性・年代別

